

令和2年度 矢向小学校 学校評価 児童アンケート 集計結果および次年度の取り組み

A:とても思う B:そう思う C:あまり思わない D:全然思わない		令和元年度 (前年度)						令和2年度 (本年度)						
質問		A	B	C	D	合計	A+B	C+D	A	B	C	D	合計	A+B
1	わたしは、学校が楽しい。	44%	43%	9%	4%	100%	87%	13%	50%	38%	8%	4%	100%	88%
2	わたしは、勉強をがんばっている。	37%	46%	14%	3%	100%	83%	17%	36%	50%	12%	2%	100%	86%
3	わたしは、学校での勉強がわかる。	41%	41%	15%	3%	100%	82%	18%	43%	42%	14%	2%	101%	85%
4	わたしは、自分からすすんであいさつができる。	46%	37%	13%	4%	100%	83%	17%	52%	35%	10%	3%	100%	87%
5	わたしは、友達と仲よくしている。	61%	34%	3%	2%	100%	95%	5%	67%	28%	3%	2%	100%	95%
6	わたしは、すすんで体を動かしている。	46%	31%	15%	8%	100%	77%	23%	46%	35%	15%	4%	100%	81%
7	わたしは、健康や安全に気をつけて生活している。	49%	36%	12%	3%	100%	85%	15%	52%	36%	10%	2%	100%	88%
8	わたしは、周りの人から大切にされている。	33%	43%	17%	7%	100%	76%	24%	32%	45%	17%	6%	100%	77%
9	わたしには、困ったときに、相談できる大人がいる。	52%	34%	10%	4%	100%	86%	14%	49%	36%	11%	4%	100%	85%
10	わたしは、きまりを守って生活をしている。	37%	47%	13%	3%	100%	84%	16%	42%	47%	9%	2%	100%	89%
11	わたしは、まちの行事にすすんで参加している。	37%	31%	21%	11%	100%	68%	32%						

質問	結果及び次年度の取り組み
1	肯定的な回答の中で「とても思う」の回答が6%増加している。全体の数値を見ると、肯定的な回答をしている児童の中で、「そう思う」から「とても思う」に数値していると捉えることができる。引き続き、「楽しさ」を自分自身で見出せるよう「めあて」をもって活動できるように指導をしていく。
2	肯定的な回答が3%増加している。日々の授業の様子からも、コロナによる臨時休業中に、子どもたちの「学びたい」という意欲と教職員の「よい授業をしたい」といのがより高まった結果だと捉えることができる。
3	肯定的な回答が3%増加している。【質問2】と同様に子どもたちの「学びたい」という意欲と教職員の「よい授業をしたい」という思いがより高まった結果だと捉とができる。
4	肯定的な回答が4%増加している。コロナの影響でマスクが外せず表情が見えづらい中でも、あいさつをすることで気持ちのよいコミュニケーションをしようと児童心にあいさつ運動に取り組んだ成果だと考えられる。「矢向小の子どもはあいさつをよくする」が伝統になってきている。
5	昨年同様、肯定的な回答が95%と高い水準を維持している。コロナの影響で集合して顔を合わせて活動する集会は実施できなかったが、担当の子どもたちと教職員してTVを使った集会を企画・運営し「つながり」を創った成果だと考えられる。
6	肯定的な回答が4%増加している。コロナの影響で体育科の学習やロングタイムの遊び方に制限がかかった状況下での増加は、健康に生活するために運動習慣の重要導してきた成果だと考えられる。
7	肯定的な回答が3%増加している。教職員で作成した、正しい手洗いやソーシャルディスタンスなど新しい生活様式に合わせた「コロナ感染予防VTR」を全児童が一回視聴したことや各家庭の協力のもと行った毎日の健康観察（検温チェック）の成果だと考えられる。
8	肯定的な回答が1%増加しているが、否定的な回答が23%と依然として高い状況にある。自分や友達のよさを実感したり、見つけたよさを伝え合う時間を多く設け分のことが大切だと感じられるようにしていく。
9	肯定的な回答が1%減少している。これまで同様に年2回の教育相談を実施したり、困り感のある子どもの共通理解も行ったりした。今後は教育相談の実施時期ややり感のある子どもへの支援の仕方等を積極的に改善し、取り組みが形骸化しないようにしていく。
10	肯定的な回答が5%増加している。これまでの指導の成果と捉えるとともに、コロナの影響で「よい子でいなくてはいけない」といった、これまでにないストレスをいる子どもがいる可能性も考えられる。どんな時でも、どうして規則を守る必要があるのか自分で判断し、正しく行動できるように指導していく。
11	※本年度はコロナの影響を鑑みて実施せず

C+D
12%
14%
16%
13%
5%
19%
12%
23%
15%
11%

直が推移
という思
見えるこ
直会を中
員が協働
要性を指
齊に2
目し、自
手法、困
を抱えて